

芦屋層群（漸新統）から産出した *Parotodus benedeni*（板鰓類）の歯化石

久志本鉄平¹⁾・田中 猛²⁾

¹⁾ 下関市立しものせき水族館, 〒750-0036 山口県下関市あるかぽーと 6-1

²⁾ サメの歯化石研究会, 〒256-0816 小田原市酒匂 1 丁目 25-40-311

A fossil tooth of *Parotodus benedeni* from the Ashiya Group (the Oligocene) in Kitakyusyu City, Fukuoka Prefecture, Japan

Tepei KUSHIMOTO¹⁾・Takeshi TANAKA²⁾

¹⁾ Shimonoseki Marine Science Museum, 6-1 Arcaport, Shimonoseki City, Yamaguchi Pref., 750-0036 Japan

²⁾ The Japanese Club for Fossil Shark Tooth Research, 1-25-40-311 Sakawa, Odawara City, Kanagawa Pref., 256-0816 Japan

Abstract : A fossil tooth of *Parotodus benedeni* was found from the Yamaga formation, the Ashiya Group (the Early Oligocene) in Kitakyusyu City. The record fossil tooth of *Parotodus benedeni* in the world have been found from the Oligocene to the Pliocene. However, the discovery in Japan had been limited from the Miocene to the Pliocene up to now. It was clarified to have already lived in the Oligocene by discovering fossils of this kind of teeth that had produced from the Ashiya group (the Oligocene) that reported by this paper in Japan.

Key words : *Parotodus benedeni*, Ashiya Group, tooth fossil

キーワード : パラオトダス ベネデニー, 芦屋層群, 歯化石

はじめに

福岡県北九州市に分布する芦屋層群（漸新統）から産出した板鰓類の化石について、今までに上野他（1984）および田中・加島（2000）によりカグラザメの一種、シロワニ属、レモンザメ属、*Carcharodon angustidens* など 14 種の報告がなされている。今回、北九州市小倉北区藍島から、新たに *Parotodus benedeni*（板鰓類）の歯化石が産出したので報告する。

産出地

本稿で報告する *Parotodus benedeni* の歯化石は北九州市小倉北区藍島南海岸の砂礫岩から産出した（図 1）。産出地は、芦屋層群山鹿層であり、その地質年代は村上等（1989）によるフィッション・トラック法による年代から 30.3±1.2Ma、尾崎・濱崎（1991）によるフィッション・トラック法による年代から 31.7±2.3Ma と測定されている。また、茨木（1994）による浮遊性有孔虫から見た年代では 31.6 - 30.0Ma に相当する。これらの測定値から産出地の地質年代はおおよそ 30Ma の前期漸新世に相当する。

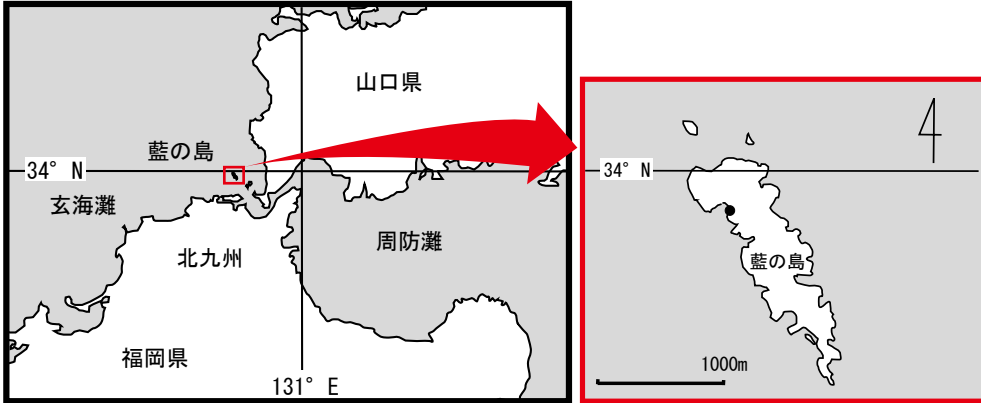


図 1. 化石産地 (●: 化石産出場所)

記載

Class Chondrichthyes 軟骨魚綱
Subclass Elasmobranchii 板鰓亜綱
Order Lamniformes Berg 1958 ネズミザメ目
Family Otodontidae Glückman 1964 オトダス科
Genus *Patotodus* Cappetta 1980
Patotodus benedeni (Le Hon, 1871)

本標本の歯冠は三角形で、切縁に鋸歯はない。歯冠の舌側面は強く膨らむが、唇側面は平坦である。歯冠は遠心に傾き、歯頸帯はほとんど発達しない。歯根は厚く、特に中央隆起が強く発達する。また、歯根は、明瞭に二股に分離し、歯根基底は中央部に湾入する。

通常、本種は歯頸帯が三角形に発達するが、本標本が比較的小型のため、歯頸帯が、あまり発達しないものと思われる。以上の特徴により、明らかに *P. benedeni* の歯化石と同定できる。

なお、歯冠の遠心への傾きがさほど強くなく、歯冠幅が細く、歯冠、歯冠咬頭頂が舌側方向に少し反ることから、下顎の前歯あるいは前歯に近い側歯と推測する。

本標本(図2)の計測値(単位:mm):RW:20.9, TH:35.45, RT:12.0, CW:18.3, LiH:17.4, LaH:23.45, CT:6.75. 歯の用語および計測は、矢部(1999)および矢部・後藤(1999)に従った。

考察

Cappetta (1987)によると、*P. benedeni* の化石はヨーロッパ、北アメリカ、西アフリカの世界各地の漸新世から鮮新世まで産出が認められている。一方、日本でのこれまでの報告では、中新世前期(20Ma)から後期鮮新世(約2Ma)に限られている(横山他,2003)。しかし、本稿で報告した標本は前期漸新世(30Ma)である芦屋層群山鹿層から産出したことにより北西太平洋海域においても *P. benedeni* は漸新世からすでに生息していたと考えられる。



図 2. *Parotodus benedeni* の歯の化石
※スケールは 1cm

引用文献

- Cappetta, H. (1987) Handbook of Paleichthyology, 3B, Chondrichyes II . Gustav Fischer, Stuttgart, 1-193.
- 上野輝爾・簸本美孝・久家直之 (1984) 北九州市藍島・貝島産出の後期漸新世板鰐魚類相. 北九州市自然史博物館研究報告, 5: 135-142.
- 横山謙二・柴正博・藤田和美・木下洋一 (2003) 掛川層群大日累層からの *Parotodus benedeni* (板鰐類) 歯化石の発見. 海・人・自然 (東海大学博物館研究報告), 5: 31-35.
- 村上充英・今岡照喜・雁沢好博 (1989) 山陰西部における古第三紀火山性陥没体の分布と時代にかんする 2, 3 の問題. 陥没 - 其の構造・機構・応用 -. 地団研専報, 36: 41-47.
- 茨木雅子 (1994) 浮遊性有孔虫群から見た九州北西部第三系の年代と古環境. 月刊地球, 16: 150-153.
- 尾崎正紀・濱崎聡志 (1991) 福岡県北部に分布する古第三系のフィッシュン・トラック年代. 地質雑, 97: 251-253.
- 田中 猛・加島昭二 (2000) 漸新統, 芦屋層群産出のトラザメ属の歯. わたしたちの自然史, 73: 3-7.
- 田中 猛・早川周作・伊藤 隆 (2006) 静岡県周智郡森町の下部中新統, 倉真層群より産出したサメの歯化石. 地学研究, 55(4): 215-222.
- 矢部英生 (1999) 山形県最上郡真室川町大沢の野口層 (鮮新世) から産出した板鰐類化石. 山形県真室川産鯨類化石調査報告書. 171-186.
- 矢部英生・後藤仁敏 (1999) 板鰐類の歯に関する用語. 化石研究会誌, 32(1): 14-20.